

デジタル技工の現状とこれからの展望

株式会社 S.T.F

藤松 剛

近年デジタルツールの進化が急激に進み、歯科技工士の日常臨床が大きく変化している。

その中で様々な情報が飛び交い、各クリニックや技工所においてどのような設備を導入し、どのように活用すべきかが明確になっていないと感じる。デジタルはツールとして正しく扱えば技工作業が劇的に変わり、技工士が本来時間をかけて作業すべき工程に時間をかけられるという最高の利点がある。

従来の技工作業でも精度を追求するため、各工程において注意点やコツを掴む事で様々な問題を解決してきたと思うが、デジタルでも全く同じである。デジタルワークフローにおいても様々な誤差と要因があり、導入してすぐに何でも上手くいくわけではない。失敗には必ず理由が存在し、その失敗はメーカー頼みではなく実際に臨床家が検証や工夫をする事で改善するしかない。そこで実際の技工作業におけるデジタルワークフローをベースとして、考えられる誤差とその要因について解説し、デジタル技工の現状と展望について話したい。

【略歴】

1998年 新大阪歯科技工士専門学校 専攻科 卒業

1998年 有限会社 CDL 入社

2003年 STF Dental Service 開業

2012年 株式会社 S.T.F Kyoto 設立

2020年 株式会社 S.T.F Tokyo 設立

2022年 株式会社 S.T.F Digital Transformation Center 設立

straumann 社 CARES インストラクター

CM 社 Pekkton インストラクター

3shape 社 LAB Ambassador

3shape 社 Global KOL

新大阪歯科技工士専門学校専攻科 非常勤講師